

No.1
～設立記念の会 特別号～
2004
11/7

NPO同志社大学産官学連携支援ネットワーク

Contents...

会報

1. 理事長挨拶
2. 本NPOについて
3. 本NPOの組織体制
4. これまでの活動
5. 本日のお礼と今後について

NPO同志社大学産官学連携支援ネットワークホームページ
<http://www.doshisha-net.org/>

発行 NPO同志社大学産官学連携支援ネットワーク（同志社大学リエゾンオフィス内）
□ 京田辺 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL:0774-65-6223 FAX:0774-65-6773
□ 今出川 〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103 TEL:075-251-3147 FAX:075-251-3046

1. 理事長挨拶

同志社大学では、2002年に同志社大学の産官学連携、社会連携の窓口としてリエゾンオフィスを立ち上げました。また、翌年には知的財産センターを立ち上げ、現在に至っております。産学連携において本学は少し出遅れましたが、この2年余りのあいだに急激に、スピードをあげて取り組んでおり、まわりの方々からもようやく同志社大学の産学連携活動を認知いただけるようになってきました。

同志社大学の産官学連携活動を積極的に推進しているのがリエゾンオフィスであり、そして卒業生の有志の方々から献身的なご協力をいただきまして、このたびNPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワークが立ち上がる運びになりました。これは大学と卒業生が協同して生まれたという点で、たいへん喜ばしく思っています。

このNPOはまさに大学と卒業生との連携の賜物であり、社会にとって意義のある産官学連携活動を行うための組織です。このような試みはまだほとんどありませんので、まわりの方々から大きな期待を寄せていただいております。大学や企業の関係者などがこのNPOに集い、それぞれの利害を超えたところで連携し、産官学連携のモデルを構築することにより、地域や経済の活性化に貢献していきたいと考えています。

しかし、このNPOは同志社大学だけ、同志社の卒業生だけをサポートするということではありません。我々のサポートを必要とするすべての方々、団体にとって役に立つ活動をしていきたいと考えています。

ぜひ、この大いなる目的の達成に向けて我々と共に歩んでいただきたいと思います。ご支援とご協力を心からお願いいたします。

2. 本NPOについて

産学の連携の必要性が叫ばれる昨今、同志社大学もリエゾンオフィスを中心に産官学の連携を図って参りました。そして、知的財産管理の整備も進め、本格的な産官学連携を行うに足る基盤は出来上がったと考えます。

そこで、他大学に先駆けて産官学連携の魁となるべく、新しい組織を設立することとしました。そして、昨年末からリエゾンオフィスと同志社を愛すると共に産学連携に造詣のある卒業生有志が無償かつ真剣な討議を何度も繰り返し、産官学連携の基点となるに相応しい組織作りを努力して参りました。それが、本NPOです。同志社大学には、優れた教員や活気のある学生と共に、産業界を中心に活躍されている多くの卒業生の方々がおられます。卒業生を含めたオール同志社が一丸となって同志社大学の産官学連携を盛り立てていければ、これに勝ることはありません。

これまでの産学連携は、ともしれば大学の外側にある「産」と内側にある「学」とが、手探りでニーズとシーズを掛け合わ

そうしてきたところがあります。これでは、真の連携は生まれにくいのが当然です。相互の意思疎通のためには、「産」と「学」を構成する各人が同じ会員となって共にアイデアを出し合い、意見を交換する組織が必要です。これこそが、本NPOなのです。同志社大学の研究者、卒業生を中心とした産業界で活躍する方々、産学連携をサポートする専門家、ベンチャー希望者等に幅広くご参加をいただき、近畿経済産業局・京都府・京都市等の公的なご支援も得て、同志社大学の産官学連携の流れを急加速させようではありませんか。もちろん、本NPOは、同志社大学関係者のみのものではありません。同志社大学の知的資産を活用し、同志社大学と連携してビジネスを伸張させたいと考える全ての方々に関わられた組織です。

本日、ようやく設立記念の会に漕ぎ着けたばかりの生まれたる組織ですが、本日お集まりの皆様のご意見やご指導を受けつつ、素晴らしい組織に育てて生きたいと思えます。

3. 本NPOの組織体制

「産」と「学」とが融合した本NPOらしい組織になっています。

| | |
|------|---|
| 理事長 | 八田英二（同志社大学学長） |
| 副理事長 | 五島 洋（弁護士・飛翔法律事務所） |
| 理事 | 片山傳生（同志社大学副学長・研究開発推進機構長） 田中英二（ビービーネット株式会社代表取締役社長） 田中 譲（同志社大学商学部教授） 辻内伸好（同志社大学工学部教授・リエゾンオフィス副所長） 中居成子（株式会社ハート・アンド・キャリア代表取締役） 和田 元（同志社大学工学部教授・リエゾンオフィス所長・知的財産センター所長） |
| 監事 | 松本敏史（同志社大学商学部助教授） 脇本裕正（ブルデンシャル生命保険株式会社） |

4. これまでの活動

当NPOの紹介と会員の獲得を目指して設立の会に先行し、セミナーやシンポジウムを行って参りました。

プレセミナー

| | | |
|----------|-----|--|
| 9月24日（金） | テーマ | 産官学連携と地域経済の活性化～同志社大学産官学連携支援ネットワークへの期待～ |
| | 講師 | 近畿経済産業局地域経済部産官学連携推進課 技術交流第一係長 足立 光晴氏 |
| | 概要 | 産官学連携施策の変遷と経済産業省の取り組みを紹介するとともに、NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワークの活動への期待とその活動をサポートするための各種施策を紹介する。 |
| | テーマ | 大学との文系連携によるマーケティング・ブランド強化 |
| | 講師 | 中小企業診断士 黒田 啓介氏 |
| | 概要 | 現在進めている産学連携の旅行企画のほか、きゅうたなべ倶楽部との連携など、文系連携の事例のポイントを分析する。 |

| | | |
|-----------|-----|---|
| 9月29日(水) | テーマ | 産学連携の法的問題と企業が大学との連携を生かして発展するためのノウハウ |
| | 講師 | 飛翔法律事務所 弁護士 五島 洋氏 |
| | 概要 | 産学連携にはどのような法的問題があるのかを網羅的に検討して分かり易く解説する。また、企業が大学との連携を生かして発展を図る場合、どのような点に気を付けるべきかというノウハウも説明をする。多くの産学連携の実務に携わっている者として、分かり易く実践的なセミナーを行いたい。 |
| | テーマ | 起業から短期で株式公開を実践した経営者が語る起業家へのメッセージ |
| 10月1日(金) | 講師 | ピーピーネット株式会社代表取締役社長 田中 英司氏 |
| | 概要 | 事業を上手に立ち上げるノウハウはない。学問にも、経営にも王道は無い。ただ、企業の経営者として、やるべき事・やってはいけない事等、いくつかの原則はあるように思う。事業家のプロセスで経験した事を、わかりやすくお話しする。 |
| | テーマ | 事業法人における生命保険を使ったリスクマネジメント |
| | 講師 | ブルデンシャル生命保険株式会社 ライフアドバイザー 脇本 裕正氏 |
| 10月6日(水) | 概要 | 事業法人が将来直面するであろうリスクについて、生命保険の役割、利用の仕方を元銀行員の視点も含めて話をする |
| | テーマ | 企業偏差値 新企業力指数 |
| | 講師 | 同志社大学商学部助教授 松本 敏史氏 |
| | 概要 | 「計数管理の基礎」 決算書を見れば企業の健全度が一目瞭然。素人でも8つの数値で企業力を総合判断できる。 |
| 10月13日(水) | テーマ | 3軸力覚センサーの開発と人間工学への応用 - 企業との共同研究の成果を中心として - |
| | 講師 | 同志社大学工学部機械システム工学科教授 辻内 伸好氏 |
| | 概要 | 物と物がふれあう時、手や足に何かか触れる時接触面に作用する力を計測するため開発した力覚センサーといろいろな応用例について紹介する。 |
| | テーマ | 特許の活用と産学連携の推進 |
| 10月20日(水) | 講師 | 三枝国際特許事務所 弁理士 眞下 晋一氏 |
| | 概要 | 産学連携を推進する上で特許が有力なツールになるケースについて、出願戦略や活用戦略などを、具体例などを交えて話しを行う。 |
| | テーマ | 「開業に役立つ決算書作成の指針(税務署、銀行との関係)と消費税対策」 |
| | 講師 | 税理士 五島 真由子氏 |
| 10月20日(水) | 概要 | 決算書は、銀行や親会社、税務署に提出する会社の顔と言えるものである。どのように作成すれば税金を安くし、かつ銀行や親会社の受けのいいものができるのか?事例などを用いて検討する。また、本年大幅な改正の行われた消費税についても少し検討を行う。 |
| | テーマ | 会社設立手続き - 現金がなくても会社をつくれます - |
| | 講師 | あおぞら司法書士法務総合事務所 司法書士 稲津 喜久代氏 |
| | 概要 | 起業の第一歩は会社設立である。現在の商法では、有限会社は300万円以上、株式会社は1000万円以上の現金を用意し、それを資本金にするのが原則となっている。しかしながら、これから起業される方にとってそのような大金を用意するのは難しく、にもかかわらずこれから商取引をするには会社である必要がある、といったジレンマが存在する。このセミナーでは、最近よく聞く「1円会社」の設立方法や、現金ではなく現物(車・ソフトウェア等)を出資して会社を設立する方法をわかりやすく説明する。 |
| 10月20日(水) | テーマ | オンラインショップのための人工知能ニーズ紹介 |
| | 講師 | 有限会社フジモト・リサーチパーク 代表取締役 藤本 和則氏 |
| | 概要 | 人工知能は煩瑣な処理をコンピュータに実行させるための技術である。本セミナーでは、近年、利用者が増加を続ける「オンラインショップ」を取り上げパーソナライゼーションやリコメンデーションのための人工知能ニーズを紹介する。 |
| | テーマ | 「コンピュータシミュレーションによる最適化と並列処理」 |
| 10月20日(水) | 講師 | 同志社大学工学部応用理工学助教授 廣安 知之氏 |
| | 概要 | ある目的の値を最小化もしくは最大化するようなパラメータを決定する問題は最適化問題と呼ばれる。身の回りの問題を最適化問題に変換することができれば、コンピュータシミュレーションにより解決できる可能性がある。簡単な例題を通じて最適化問題を紹介します。どのようにして問題を解決するのかを説明する。さらに、問題によっては計算時間が膨大になるため、並列処理を行って解決する方法を解説する。 |

| | | |
|-----------|-----|---|
| 10月26日(火) | テーマ | 中国における知的財産管理～横放品への対策 |
| | 講師 | 三枝国際特許事務所 弁理士 岩井 智子氏 |
| | 概要 | 中国の経済成長は日系企業の成長に大きく影響している。一方、中国及びその周辺国の横放品は、その「質」が巧み化し、ひいては競合品として独自の躍進を遂げている。多大な開発費が投下された自社製品についての知的財産権の保護は十分か、中国におけるブランド戦略をどのように構築するか、という問題と並行して横放品対策は必須かつ喫緊の課題といえる。解決を図る前提として、まず中国の知的財産権法制度を正しく理解し、また現地での経営戦略にそった対策を行っていくことが重要である。セミナーでは、中国の実情や知的財産権を取得する際の注意点等について、実例を交えながら解説する。 |
| | テーマ | 大学における知的財産マネジメントと産学官連携 |
| 10月26日(火) | 講師 | あずさ監査法人 知的財産戦略室・産学官連携室マネージャー 芝坂佳子氏 |
| | 概要 | 大学における「知の創造」を産業界の「事業の創造」に結び付け、さらに「知の創造」にフィードバックされる「イノベーションサイクル」の創出が求められている。 |

シンポジウム

日時：2004年10月9日(土)

内容：基調講演 15:00～16:00

“同志社大学の産学連携の現状と今後の展開” 同志社大学リエゾンオフィス所長 和田 元氏

パネルディスカッション 16:00～17:30

“同志社大学産官学連携活動とNPO同志社大学産官学連携支援ネットワークとの連携について”

コーディネータ：飛翔法律事務所 弁護士 五島 洋氏

パネリスト：がんこフードサービス株式会社 代表取締役 小嶋 淳司氏

近畿経済産業局産業部サービス産業室 室長 児玉 桂子氏

同志社大学商学部教授 田中 譲氏

同志社大学リエゾンオフィス所長 和田 元氏

5. 本日のお礼と今後について

最後に、ご多忙のところ、本日の設立記念の会にご出席いただきまことに厚くお礼申し上げますと共に、本NPOの発展のためご指導ご鞭撻下さいますよう、よろしく願い申し上げます。

また、本号は、設立記念の会にあたってのプレ会報ですが、会員になっていただいた皆様には随時会報をお送りする予定です。